

5.1.JCA BC

ここでは JCA BC を動作させるサンプルについて説明します。

5.1.1.サンプルの概要

本サンプルでは以下の 4 つの zip ファイルを提供しています。

Zip ファイル名	説明
FileToJCA_SA.zip	JCA BC を Outbound で動作させるサンプルです。
FileToJCA_SA_Proj.zip	JCA BC を Outbound で動作させるサービスアセンブリのプロジェクトファイルです。解凍ツールなどを利用して解凍後ご利用ください。
JCAToFile_SA.zip	JCA BC を Inbound で動作させるサンプルです。
JCAToFile_SA_Proj.zip	JCA BC を Inbound で動作させるサービスアセンブリのプロジェクトファイルです。解凍ツールなどを利用して解凍後ご利用ください。
JCATest.zip	TPBASE を利用するために必要な定義ファイルです。解凍ツールなどを利用して解凍後ご利用ください。

サービスアセンブリの内容をカスタマイズする場合は、サービスアセンブリのプロジェクトファイル(FileToJCA_SA_Proj.zip、JCAToFile_SA_Proj.zip)を WebOTX 開発環境(Developer)にインポートしてご利用ください。

利用の手順については「アプリケーション開発ガイド」の「5 章 SOA」-「5.1. ESB」を参照してください。



サービスアセンブリのプロジェクトファイルは、WebOTX 開発環境(Developer)以外では利用できません。

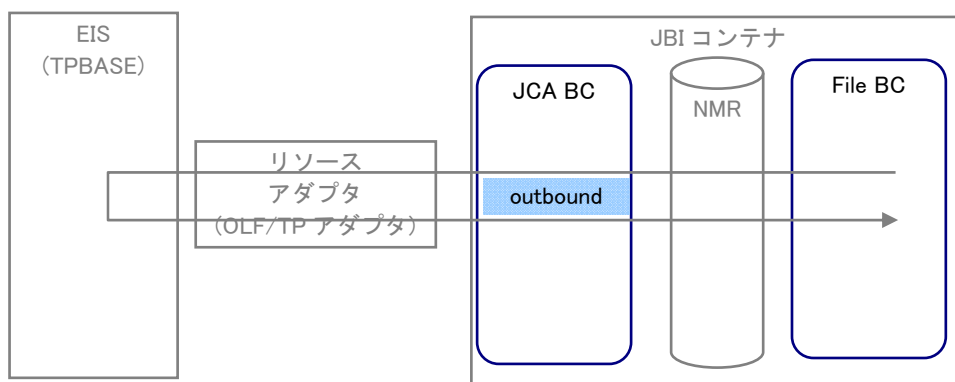
以下に Outbound で動作させるサンプルと Inbound で動作させるサンプルの概要を説明します。

Outbound のサンプル

本サンプルは JCA BC が in-out パターンで動作するサンプルです。

構成を以下に示します。

【図 5.1.1.a】 Outbound のサンプルの構成



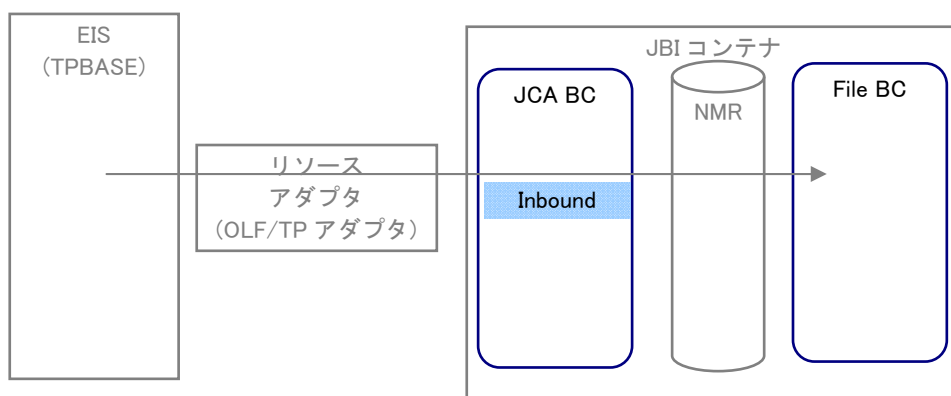
File BC が監視しているディレクトリに xml ファイルを置くと、File BC はその xml ファイルからメッセージを作成し、JCA BC に送信します。JCA BC は受け取ったメッセージから Record を作成し、OLF/TP アダプタを使用して TPBASE に電文を送信します。TPBASE では受信電文を折り返して返却する単純な TPP が動作し、受信した電文を応答電文として OLF/TP アダプタに返却します。その後、OLF/TP アダプタは TPBASE から電文を受信し、Record に変換して JCA BC に渡します。JCA BC は受け取った Record を xml ファイルに変換しメッセージを作成して、File BC に返却します。File BC は受け取ったメッセージを xml ファイルとして指定されたディレクトリに出力します。

Inbound のサンプル

本サンプルは JCA BC が in-only パターンで動作するサンプルです。

構成を以下に示します。

【図 5.1.1.b】 Inbound 動作の概要



OLF/TP アダプタは TPBASE から受信した電文を Record に変換し、JCA BC に渡します。JCA BC は OLF/TP アダプタから受け取った Record を xml ファイルに変換し、メッセージを作成して File BC に渡します。File BC は受け取ったメッセージを xml ファイルとして指定されたディレクトリに出力します。

5.1.2. サンプルの実行手順

サンプルの実行手順は以下のようになります。

1. 業務アプリケーションの登録と TPBASE の起動
2. OLF/TP アダプタの配備
3. サービスアセンブリの配備・開始
4. サンプルの実行

業務アプリケーションの登録と TPBASE の起動

以下の手順で業務アプリケーションの登録と TPBASE の起動を行ってください

1. 端末定義の登録
2. 業務アプリケーションの登録
3. TPBASE の起動
4. 業務アプリケーションの起動

「2. 業務アプリケーションの登録」については「5.1.4 業務アプリケーションの登録方法」を参照してください。また、TPBASE の詳細な利用方法については TPBASE 運用管理ツールのマニュアルを参照してください。

OLF/TP アダプタの配備

サンプルを実行する前に OLF/TP アダプタを配備する必要があります。OLF/TP アダプタの配備は配備ツールや運用管理コマンドで行うことができます。詳細は WebOTX Online Manual の「オプション製品」-「OLF/TP アダプタ」-「アプリケーション開発ガイド」を参照してください。

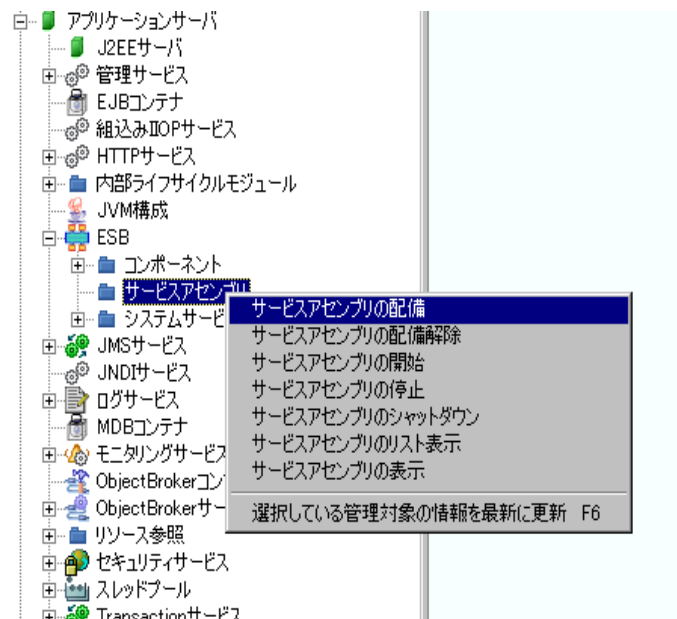
サービスアセンブリの配備・開始

サービスアセンブリの配備と開始について説明します。

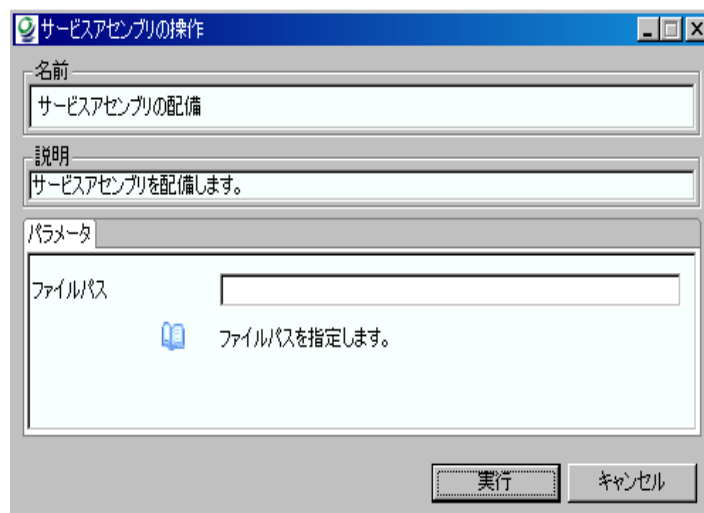
サービスアセンブリの配備

統合運用管理ツールでサービスアセンブリを配備する方法を以下に説明します。

右図のようにサービスアセンブリで右クリック-「サービスアセンブリの配備」を選択します。



ファイルパスに配備するサービスアセンブリのパスを指定し「実行」ボタンをクリックします。

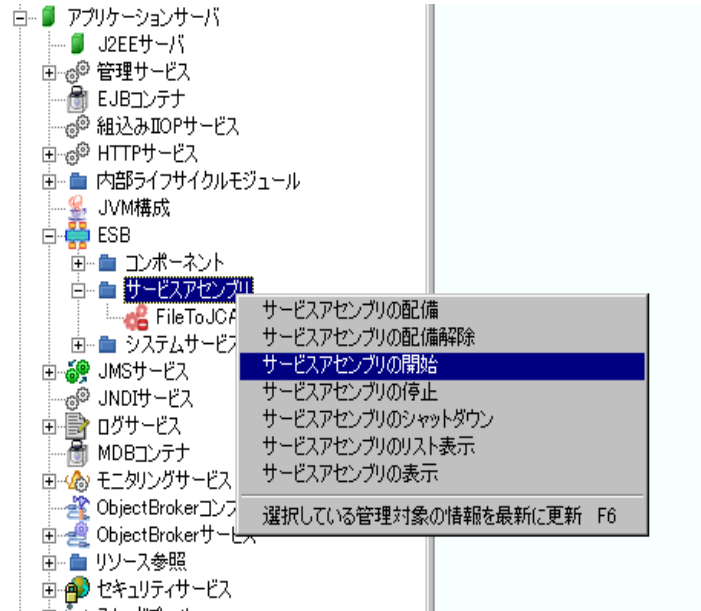


以上でサービスアセンブリを配備することができます。このほかにも jbiadmin コマンドで配備することもできます。詳細は WebOTX Online Manual の「オプション製品」-「Enterprise Service Bus」-「第 4 部 運用」を参照してください。

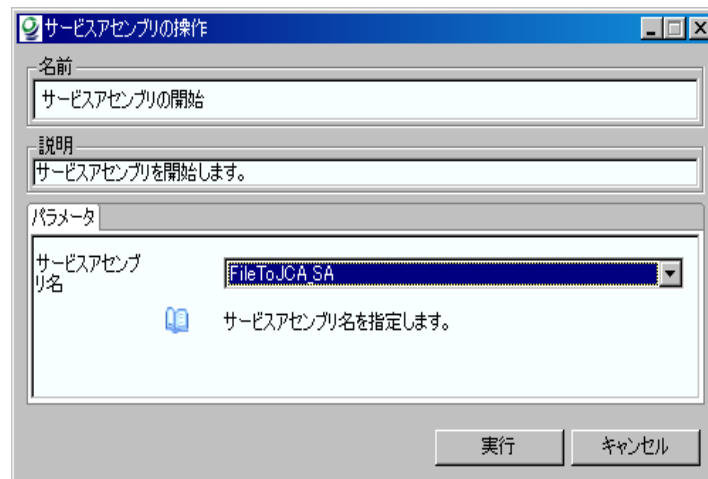
サービスアセンブリの開始

統合運用管理ツールでサービスアセンブリを開始する方法を以下に説明します。

右図のようにサービスアセンブリで右クリック
「サービスアセンブリの開始」を選択します。



開始するサービスアセンブリ名を選択し「実行」ボタンをクリックします。



以上でサービスアセンブリを開始することができます。このほかにも jbiadmin コマンドで開始することもできます。詳細は WebOTX Online Manual の「オプション製品」-「Enterprise Service Bus」-「第 4 部 運用」を参照してください

サンプルの実行

サンプルの実行については「5.1.3.サンプルの実行方法」で説明します。

5.1.3.サンプルの実行方法

ここでは、Outbound 動作と Inbound 動作を行うサンプルの実行方法について説明します。

Outbound 動作

JCA BC を Outbound で動作させるサービスアセンブリの実行方法を説明します。

サンプルの実行

サービスアセンブリの開始後、サンプルで提供している jca bc.xml を、以下のディレクトリにコピーします。

D:\WebOTX\domains\domain1\logs\tmp\input\inputxml

動作確認

jca bc.xml をコピーした後、以下のディレクトリに xml ファイルが生成されていることを確認して

ください。

D:¥WebOTX¥domains¥domain1¥logs¥tmp¥output

実行結果は xml ファイルの以下の箇所に反映されます。

```
<record pattern="out">
  <mappedrecord name="">
    </mappedrecord>
  </record>
```

Inbound 動作

JCA BC を Inbound で動作させるサービスアセンブリの実行方法を説明します。

サンプルの実行

TPBASE から OLF/TP アダプタに電文を送信します。

動作確認

以下のディレクトリに xml ファイルが生成されていることを確認してください。

D:¥WebOTX¥domains¥domain1¥logs¥tmp¥output

5.1.4.業務アプリケーションの登録方法

ここでは、TPBASE の業務アプリケーションの登録方法について説明します。

業務アプリケーションの登録

サンプルで提供している JCATest.zip には、以下の4つのファイルが含まれています。

- JCATest.ap
- JCATest.ped
- JCATest.trns
- JCATest.dll

zip ファイルを解凍ツールなどで解凍してください。

解凍後、JCATest.ap、JCATest.ped、JCATest.trns を以下のディレクトリにコピーしてください。

<TPBASE インストールディレクトリ>¥catalog

JCATest.dll を適当なディレクトリにコピーし、そのパスを JCATest.trns ファイルの以下の場所に記述してください。

TPPLIB <JCATest.dll をコピーしたディレクトリのパス>¥JCATest.dll

以下に例を記載します。

※D ドライブの TPBASE ディレクトリ配下の JCATest ディレクトリに JCATest.dll をコピーした場合

TPPLIB D:¥TPBASE¥JCATest¥JCATest.dll

以上で登録は完了です。